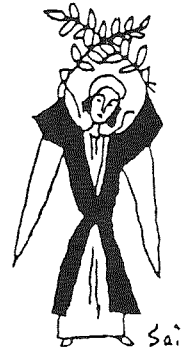


VISION

The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

《幻がなければ民は墮落する》箴言29章18節



一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
<http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org>
mail.bsa@nsskk.org

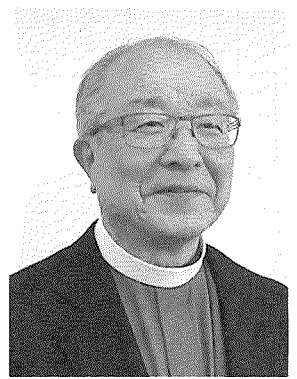
BSA 会報《季刊発行》

編集発行人 松田正人

印刷所 横インプレスコーポレーション

「からし種」が蒔かれて

主教 ガブリエル 五十嵐 正司



「天の国は、からし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔くと、どんな種よりも小さいのに、成長するとどんな野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

(マタイ13:31)

キリスト教に、私が最初に触れたのは大学2年生の時でした。高校時代からの親友が大学の部活動であるBSAに熱心に私を誘ったからです。あまりに熱心に誘うので、彼を喜ばせたいと思いその集会に出席しました。場所は渋谷にありました日本聖公会管区事務所の会議室でした。その年はマーチン・L. キング牧師がノーベル平和賞を受賞した年でしたので「人はなぜ差別をしていけないのか」をテーマにした話合いでした。チャプレンの竹内謙太郎司祭が「人は、神に似せて造られたもの。それ故に、誰もが尊い存在なのだ。」と言われた言葉を印象深く聞きました。その時に、

からし種のように小さな神の御言が私に蒔かれたと後々に受けとめました。BSA集会にはその後、出席した覚えがありません。しかし大学卒業の年、小さな種が私の中で芽を出していたからでしょうか、神の御言を生きたる拠り所として社会に出て行きたいと思うようになり、洗礼を授けていただきました。

BSA活動は「キリストの御国を拡張するために『祈り、奉仕する』ことを目的とする」組織と記されており、また「奉仕」について次の説明がありました。「会員、一人一人が来てても、出来なくても毎週一人を教会に導くために、絶えず積極的な努力を試みることに。」親友の熱心な勧誘を思い起しました。

小さな種としての信仰と言え、私の母の洗礼をも思い出します。母が洗礼を受けたと言われたときに私は喜び、驚きました。しかし母の思いは、息子の歩む道を励ましたいと、息子の為に洗礼を受けたことを20年程後に知りました。母は家の近くの教会に出席して多くの信徒さん、牧師さんとの交わりを喜んでいました。亡くなる少し前「洗礼を受けて良かった。本当に良かった。」と心から言われた言葉を嬉しく思い出します。

神の御言の種が蒔かれる時、

小さな種であっても、夜昼、寝起きしているうちに芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない、と聖書に記されています。人生の締めくくりに時には、見事な花を咲かせるのではないのか。九州教区の信徒でありハンセン病を患い苦渋の人生を生きた人が、昨年、次の辞世の句を残して亡くなりました。「極みまで愛され生きて ありがとう」

近視・遠視・乱視

世界は一向に戦争前夜の様相が止まりません。為政者も末端の政治家も何を思っ過ぎて過しているのでしょうか。気のせいでしょうか。公務員や公僕の不祥事も増えているようです。

浅はかな人間だけの力ではどうにもならないのでしょうか。6月になって悲しいニュースが2つ飛び込んできました。

BSAの先輩お二人の相次ぐ訃報です。80代なかばのお二人ですが、まだまだ元気ではなかったです。期せずして追悼記事の相次ぐ号となりました。

BSAは全国区ですが、訃報のご連絡が本部に届かないと共にしるすことができません。天国のパラダイスに送るためにもご一報をくださいますようお願いいたします。

(松田正人)



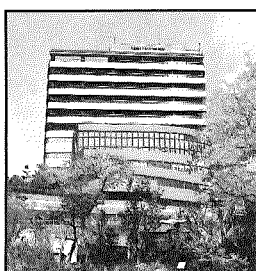
学校法人メイ・ウシヤマ学園創立100年おめでとうございます

VISIONに継続的に広告を載せて下さっている「ハリウッド美容専門学校」「ハリウッド大学院大学」の広告紙面には「創立の恩人 ポール・ラッシュ」と書いてあるのをご存知でしょうか。

東京神田三崎町に創立者ハリ牛山が美容室を開業してから今年で100年。ハリ牛山はアメリカで俳優修業中に、かの俳優早川雪舟に勧められメイ・クアッブを学んで帰国し開業したそうです。そこに同年来日のポール・ラッシュが偶々来店され、ひと夏軽井沢での開店をアドバイスされ米国人など富裕客の獲得に成功したとのこと。「ハリウッド」と名付けたのもポール・ラッシュの勧めだとの文章も残っています。

そんな古いご縁を大切に、いまも在学生は毎年、清泉寮を訪ねることとしているとは有り難いご縁です。

(松田 記)



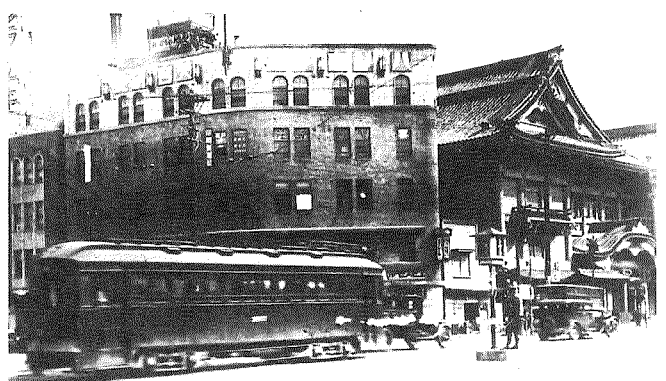
創立の恩人 ポールラッシュ

学校法人メイウシヤマ学園

ハリウッド大学院大学
ハリウッド美容専門学校

〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドプラザ

TEL 0120-083394 www.hollywood.ac.jp



BSA100周年に向けて

(連載第10回)

「日本聖徒アンデレ同胞会の足跡」

70年誌抄録④

【指導者訓練キャンプ開始・

キャンプ場建設計画も】

正式に発足した日本聖徒アンデレ同胞会は、早速1933年9月に第1回指導者訓練協議会キャンプを静岡県御殿場東山荘において開催する。翌1934年夏には第2回を開催し、この指導者訓練キャンプは同胞会が提唱する「キリストの御国を男子とくに男子青年の間に拡張する」の目的を達成する重要な事業であることを再認識した。また同年に第1回少年キャンプを東山荘で開催している。

続けて1935年には第3回夏季キャンプを山中湖畔の清溪寮（日本青年団の施設）で開催し、教役者・青年信徒120名が参加した。BSAは「10年間に10万人の信徒」を目標に、各会員が未信徒を教会に連れて行く「前進」運動をスタートさせたのである。

同年秋、BSA伝道活動の一環として「農村伝道事業」を計画、大阪府南河内郡富田林で独自の伝道活動を行っていた数本竹次長老と協力してBSAの資金援助による農村伝道事業委員

会を発足させた。

1936年、BSA本部事務所を赤坂・国際聖路加病院別館に設置。日本聖徒アンデレ同胞会事業5か年計画が次のように策定された。①聖アンデレ会館の建設、②指導者訓練キャンプ場の建設、③文書出版基金の設置、④施設維持資金の積み立て、⑤ボーイズキャンプの実施、⑥

聖公会教役者キャンプの実施。そして同年9月の第4回指導者訓練夏季キャンプ（清溪寮にて開催）において「指導者訓練キャンプ建設計画」の基本構想が定まった。それによると、施設は100名収容の本館（大会議室・図書館・事務室・厨房・小居室）、

キャビン10棟、チャペルとし、場所は富士山を望める景勝地とする。また、このキャンプ場はアンデレ同胞会の専有とせず、日本聖公会総会・婦人会・各種修養会・会合に開放する、とされた。

同年11月、日本聖徒アンデレ同胞会「設立10周年式典」を早稲田大学大隈講堂で挙行し新役員を選出した。サムエル・ヘー

ズレット首座監督を名誉会長とし、松浦積（横浜聖アンデレ教会）を第2代の会長に迎えた。そしてこの会合でポール・ラッシュは建設5か年事業計画案を発表する。清里・清泉寮誕生の2年前のことであった。

(つづく)

BSA 信徒叢書

新刊のお知らせ

なお教会などでまとめて注文して下さることを歓迎します。

吉田雅人主教（前東北教区主教・

前ウイリアムス神学館館長）著

『礼拝堂探検隊』（一）（二）

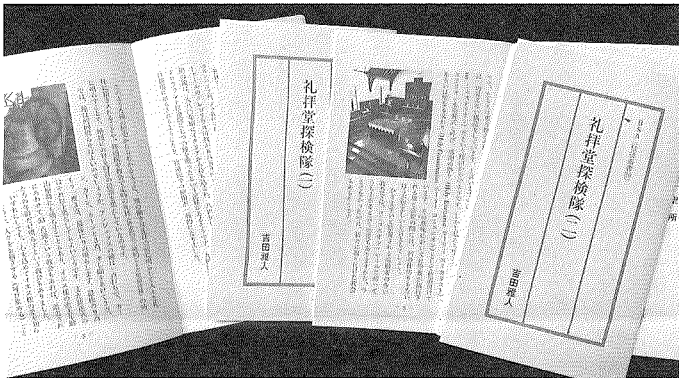
頒価各100円、7月1日に

2冊（28巻、29巻）同時に発行します。

吉田主教が東北教区報「あけぼの」に連載したものを2冊にまとめたものです。礼拝堂の構造、聖具、備品、それらと礼拝の関係などをたくさん写真と共にわかりやすく解説した入門書です。

申込みはメール mailbsa@nask.org

またはFAX(03-3433211696)で送り先、氏名、各巻ごとの冊数を明記してください。



吉田雅人主教著

『礼拝堂探検隊』（一）（二）紹介

主教 加藤博道

新たにBSA信徒叢書に加わる本書を、ご紹介できることを光栄に思います。本書は吉田雅人師が東北教区主教であられた時、同教区の教区報「あけぼの」に、二〇一九年六月から二〇二三年四月まで連載された同名のコラムを加筆修正されたものです。すべての信徒の方が礼拝堂に足を踏み入れ、何よりそこで礼拝をささげる時に、ほぼ間違いなく目にされる「多くの物たち」二十四項目について、それぞれ分りやすく簡潔に、かつ大切な点を押さえて紹介されています。「鐘」「掲示板」「祈祷書」「聖歌集」「洗礼盤」「聖書台・説教壇」「ろうそく」や「サンクトゥス・ベル」「チャリス、パテン」「祭壇布」等、すべてを列挙することは出来ません。

と共に、そうした形のある物は、純粋な信仰を妨げるものと見做したのでしょう。聖書のみ、信仰のみに徹するということです。確かに「形あるもの」は時に過剰になったり、迷信的な崇拜の対象となってしまう、そういうこともあるでしょう。しかし、やはり私たち聖公会は（伝統の多様性はあるとしても）多くの「形」や「物」に囲まれ支えられて信仰を築き、礼拝生活を送ってきました。私たちの教会、礼拝堂の中には「多くの物たち」があり、それらはそれぞれ大事にされ、同時にすべて実用的な意味を担っています。集まるには建物が必要であり、座るのに椅子が、聖餐式を行うには祭壇・聖卓やチャリス、クルエツ等、器が必要です。それらは実用的であり、同時に多くの場合、象徴的な意味も担います。

ローマ・カトリック教会の典

礼学者エドワード・フォーリー

の著に「人々は聖堂に入り、音楽を聴き、時には歌い、祈祷書を見、しばしばパンを口に

する。あらゆる時代の人々にとって、このような具体的な礼拝経験―見た、聴いた、触った、味わった―が彼らの信仰を形成する」という言葉があります（『時代から時代へ』。本書はそのことを親しみやすく再確認させてくれます。教会を訪れて日の浅い方々への手引きとして最適とも

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越 のエキスパート!!
★フロアーの移動
★各種展示会セッティング etc...

株式会社ギンテック

港区港南3-4-12

0120-223-008
TEL・3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店



目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503



株式会社
立教企画

学校業務受託、人材派遣、施設整備等
承ります。

豊島区西池袋3-34-1 立教大学17号館
TEL: 03-3985-4770
<https://www.rikkyo-planning.co.jp>



St. Luke's
会員制健康クラブ
聖路加フレンズ

03-3541-1056

受付時間 平日9:00~16:00

<https://www.stlukes-friends.com/>

新入生の神志那愛恵さんはBSA賛助会員である。BSAからは松田正人会長、木島出副会長、倉石昇顧問、吉松英美理事、八木達郎会員らが出席、門出を祝福した。

なお、今年は卒業予定者がいないため、卒業式は行わなかった。

ウイリアムス神学館は1名卒業、京都のウイリアムス神学館では、3月7日(金)に卒業式を行い、ヴェロニカ薦田久美子さんが卒業した。なお、入学式は、入学予定者がいないため、行わなかった。

(理事・ダビデ吉松英美)

寄稿 慶應BSAのこと

慶應義塾大学にBSA(聖徒アンデレ同胞会)が存在したことを知る信徒は少ないと思います。

慶應BSAは、竹内謙太郎司祭(西洋史学科卒)が1962年に東京教区の学生運動主事に就任された時期に大学の文化団体連盟認定の部として結成されました。清岡映一法学部教授(福沢諭吉は祖父)が顧問、初代学生代表は辻本亮氏(諸聖徒教会信徒)、各学年8名程度でそのうちに聖公会信徒は半数で、10年ほど活動し竹内司祭が教会牧師に専念される1974年ごろに解散したと思われます。私共の知る限りでは慶應BSAは日本聖公会BSAの活動の一部ではなく、米国BSA本部から資金支援を受けた独立の学生運動と理解しています。竹内司祭は日本聖公会の学生運動を始める前1961年に米国コーネル大学において米国聖公会特任司祭として、チャブレン活動の研修を受けています。

慶應BSAは女子部員(立教女学院・香蘭卒業生など)も所属し、聖公会の学生運動の中心的役割を果たし、教務院・教区会館で行われた読書会・講演会には他大学の男女学生も参加し一緒に数十名で議論を重ねていました。これは立教大学のBSAと異なる点と考えます。(竹内司祭が東京教区の学生運動主事になられ、単に慶應だけでなく広く門戸を広く開いて学生の抱える諸問題について議論を重ねたいとの思いがあつての事と推察いたします。

慶應BSA卒業生の約半数は受洗し、聖公会の信徒として教区や教会の役職を勤めています。多くの卒業生は慶應義塾での実学を活かした社会人となり、慶應BSAで学んだ価値観を身につけて社会参加をしています。現在30名ほどが健在で、五十嵐正司主教は九州主教時代は日本BSA名誉副会長を勤められ、森山朝一氏は米国ETTS神学校卒業後、タンザニア神学校に赴任し、アフリカの宣教に關してロンドン大学より博士号を取得しています。

近年は慶應義塾大学国際政治関係の教授や学生が、パレスチナの平和、国連協力の活動をされていることに賛同して、塾員として日吉や三田の講演会へ参加し支援をさせていただいています。慶應義塾の創立者の福沢諭吉先生は、咸臨丸で米国に渡られた時、通訳のジョン・万次郎(キリスト教ユニタリアン)と親しくし、その後、英国SPG宣教師A.C.シヨを家庭教師として迎え、福澤家親族、小泉信三第7代塾長家族など聖アンデレ教会との繋がりがあつた事を最近になって知りました。

BSAについてVision Newsへの報告」を勧められ寄稿させていただきました。人の一生は人類の歴史との係わり合いの中でとらえる事を学び、有意義な青春時代を過ごせたことに感謝いたします。

吉村共介記(BSA会員 東京聖三一教会員) 編集部追記

吉村さん、ご寄稿ありがとうございます



出典：慶應義塾大学1970年卒業アルバム

子が報告されていきました。学生団体の再建は難しいかもしれませんが、日本BSAの枠内で他の支部同様に活動を展開していくといいですね。(松田記) VISION76号(1963年5月10日)の記事より転載

今年の春期休暇は、我々慶應BSAのメンバーにとって、いろいろな面で有意義だったと言える。この種の団体ならばどこでもする様な、キャンプや研修会参加、或いは新入生オリエンテーションが我々にとつての主な仕事だったのであるけれども、内容的に言つて、或いはメンバー一人一人の内面的な発展という観点から見た場合、それらの会合や仕事は単なる通常のルーティンのそれではなかったと思うからである。(中略)我々が学内で活動をするのは、決して他のクラブが言っている様な、大學生生活の与えてくれない楽しさを与えようというわけではないし、また、休暇の間のひまつぶしをしようというのでもない。(中略)我々の原理とするところは、我々自身の持つている聖書であり、聖書に基づく信仰なのである。キリストやその弟子達とは、この世界の中で、神によって与えられたけれども、失ってしまったものをあらわにし、そしてそれを本当に人間のものとするために働かれたのだけれど、

この事が、我々にとって、大学という場に於いて不可能であるとは思わないのである。我々BSAのメンバーは、この点で、新しい段階に立っている事を本当に自覚し始めている。その事のあらわれが、春期の各行事(補筆・名古屋での学生運動中央委主催の研修会、東光学園での修養会など)を通して徐々に現れつつある様に感じられている。(中略)全BSA会員の皆様が、あらゆる点から我々の慶應大学での働きに助力の手をさしのべられ、祈りをもって支えて下さることを信じて、ますます力をつくして我々の前におかれた道を進んでいこうと思つている。

VISION77号(1963年7月10号)より 「慶應BSA先ず合宿」というタイトルで夏のキャンプを山中湖畔で計画しているとの記事がありました。竹内謙太郎チャブレンの指導を得ようとの3泊4日の夏期修養キャンプです。その記事のとり方には「立大BSA各地に活躍」との記事で、第2支部、第3支部、第4支部、第5支部、第6支部、第8支部、第9支部、第11支部、第12支部、第13支部、第16支部の夏の諸活動が記されています。他に各支部有志20名によるワークキャンプ、アセンブリー・キャンプも予定されています。現在とは大きな違いがありますね。

信徒と教役者のために祈りましょう

永遠にいます全能の神、すべての良い賜物を与えて下さる主よ、どうか私たちの教役者とその委ねられた会衆に聖霊を降し、常に恵みの露を注ぎ、まことに主のみに適う者として下さい、この願いを私たちのとりなし主、み子イエス。キリストの誉れのためにお聞き入れください。アーメン

九州教区主教座
聖堂新築なる

モーセ 酒井 健
(福岡支部長)

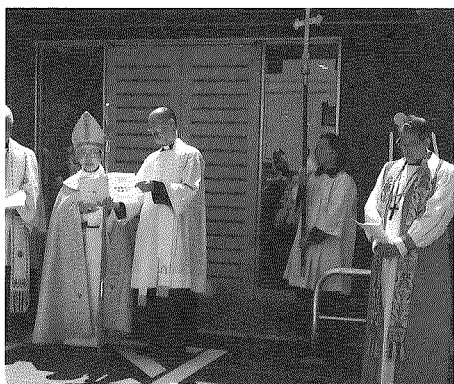
「門よ、開け」

去る4月26日(土)、九州教区主教座聖堂・教区センター・福岡聖パウロ教会聖堂聖別式聖餐式が、笹森田鶴管理主教司武藤謙一前九州教区主教説教のもと行われた。

説教では、任期中ずっと建設準備を指揮し、また見守られてきた武藤主教の喜びを分かち合うことができた。翌日は、笹森主教司式・説教の聖餐式。3か月間という短い期間ではあるが、わたしたちに笹森主教が与えられた喜びを主に感謝。

55年前、前聖堂の聖別式で、教会代表として最初に扉を開けたのが祖父イザヤ孫八だった。時を経て、今度はわたしがクロスを持って最初に入堂した。「狭

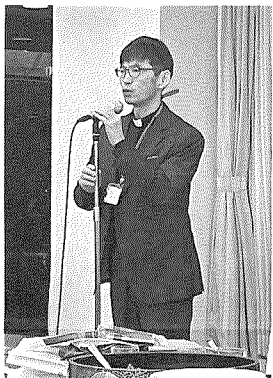
い門から入りなさい」が座右の銘のわたしが、開けられた扉は限りなく広がった。



おめでとうございました。

2025年は主教按手式、教区主教の就任式が相次いでいます。

教区で悩みながら選び今と将来を託す新主教の誕生は各教区にとってこの上ない喜びです。BSAでは新主教には「名誉副会長」の推戴状とあわせてアンデレ十字のワッペンをついたストールをプレゼントする習わしとなっています。主教方や遠来



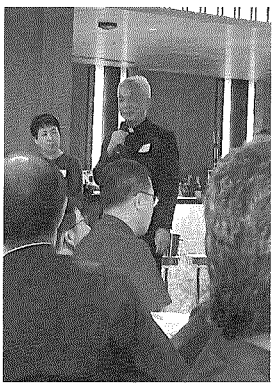
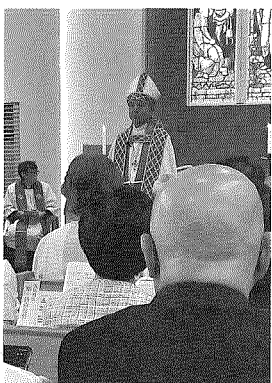
の客の集うレセプションから参加させていただき、参列者みんなが喜んでいる礼拝にも参加できる幸せな時を感謝しています。
*大阪教区主教 バルナバ小林 聡師

4月12日 大阪教区主教座聖堂
川口基督教会にて大阪教区の新主教にバルナバ小林 聡師が按手されました。韓国、台湾、ブラジルからも主教方も集まり、満場の礼拝堂は喜びに溢れていました。大阪教区にはBS

Aの支部は現存せず、連合男子会の組織があるとうかがっています。改めてBSAの存在をわかっていただき、ご支援と協働をお願いいたしました。

*九州教区主教 マルコ柴本孝 夫師

7月5日 九州教区主教座聖堂
福岡聖パウロ教会にて九州教区の新主教にマルコ柴本孝夫師が按手されました。大韓聖公会の主教方もおいでになり、新築相成った聖堂中が喜びに包まれ



ていました。九州教区にはBSA福岡支部があり、歴代支部長のもと、熱心に歴史をつないでくださっています。昨年10月に支部訪問し、チャプレンの柴本師にもお会いしました。

残席僅か キャンセル待ち

2025年BSA研修旅行
「あぶらむの里を訪ねる旅」
8月26日(火) 7:30新宿集合
8月28日(木) 夕刻 名古屋経
由帰京予定
費用・55,000円

中部教区の岡谷聖バルナバ教会を訪問後、貸切バスで高山「あぶらむの里」に向かいます。
あぶらむの里を主宰する大郷博東京教区退職司祭の働きに触れ、学びます。

6月末にご案内DMを会員宛て発送しましたが、まだお申し込みでない方は下記にお尋ねください。
Eメールアドレス
mail.bsa@nssk.org



電話番号
03-3432-1696

支部一覧(2025.7末現在)
聖職の人事異動などにより、チャプレンの変更があります。

盛岡支部	司祭	越山 哲也
聖ルカ礼拝堂支部(休会中)	司祭	赤坂 徹
東京聖三一教会支部	司祭	成 成鍾
東京聖マルコ教会支部	司祭	早川 潔
東京聖マルコ教会支部	司祭	菅原 裕治
東京聖マルコ教会支部	司祭	川村 啓三
東京聖マルコ教会支部	司祭	高橋 顕
インマヌエル新生教会支部	司祭	島崎 敏彦
神田支部	司祭	金 大原
神田支部	司祭	丸茂 晴彦
南町田支部	司祭	下条 裕章
南町田支部	司祭	金澤 一央
横浜支部	司祭	上田 憲明
横浜支部	司祭	松田 正人
藤沢支部(休会中)	司祭	渡部 明央
藤沢支部(休会中)	司祭	高橋 紀道
平塚聖マリヤ教会支部	司祭	松田 浩
平塚聖マリヤ教会支部	司祭	渡邊多茂夫
林間支部	司祭	大野 清夫
林間支部	司祭	小室 喜雄
房総支部	司祭	田澤 利之
北総支部	司祭	宇津山武志
北総支部	司祭	内田 利一
清里支部	司祭	片山 謙
清里支部	司祭	丹治 隆雄
福岡支部	司祭	小林 祐二
福岡支部	司祭	野田 徹
福岡支部	司祭	柴本 孝夫
福岡支部	司祭	酒井 健

逝去者のために祈ります。

世にある人、世を去った人の主なる神よ、あなたは主にあつて死ぬ者は幸いであると、教えられました、どうか主を信じて世を去り、安らかな眠りについたしもべらに豊かな祝福を与え、主が彼ら彼女らのうちに始められた救いのみ業を、イエス・キリストの日に成就して下さい。天の父よ今なお世にあつて主に仕える私たちにも恵みを与え、ついに彼ら彼女らと共にみ国の世継ぎとして下さい。救い主イエス・キリストによってお願い致します。アーメン

訃報

エリザベツ

大久保陽子 姉
三光教会信徒 (92歳)
(賛助会員)
6月1日逝去

アウグスチヌス

岩間光雄 兄
(86歳)
(北総支部長)
6月16日逝去

マルチン

足立征三郎 兄
(85歳)
(理事・前会長)
6月17日逝去

アウグスチヌス

岩間光雄さんを偲ぶ

柏聖アンデレ教会

テモテ 萩谷長生

BSAの北総支部長や特別委員長として活躍された岩間さんは1938年樺太生まれで、学生時代まで北海道で過ごされま

した。若き日にキリスト教に出会い、その後聖公会に転じ、池袋聖公会を経て当時の松戸集会(現・松戸聖パウロ教会)の発展に大いに寄与されました。鉄鋼会社のエンジニアの特技を生かし、礼拝堂を兼ねた集会所(プレハブ)建設の立役者の一人でした。

負うところ大と改めて感じ入った次第です。



足立征三郎さんを偲んで

永井信行 (理事)

振り返れば、私が東京教区から松戸集会に転籍して以来、同世代の岩間さんとの付き合いは半世紀にも及びます。定年前後のころ、バンコク駐在中の私に岩間さんから今度タイに出向することになったとの連絡がありました。それから帰任するまでの約1年間、折に触れて現地産のシンハビールを飲みながら「異業種交流」を重ねたのも今と

20年間会長を務めた伊達宗浩さんは後継者を選ぶのに慎重でした。結局1年間の共同代表を経て寺内安彦さんが着任し、8年務められました。事務局には小笠原汎さん(小笠原忍司祭の弟さん)、名簿作成など今につながる大きな仕事をなさいました。またまた後継者で悩んでいました。結局小笠原さんが事務関係は全面的に引き受けるからという条件で砂田さんが着任したのでそのお正月、小笠原さんが小田急電車内で脳梗塞、

去る6月20日の通夜式後に行われた「偲ぶ会」は、異例の明るい雰囲気の中で遅くまで続きました。これは故人とご遺族の底抜けに明るいキャラクターに

事務局へ出てくることも出来ず、監事を務めていた大久保忠昭さんと私は奥様に来ていただく機の中を整理していただくなど大変な事でした。当時教区の宣教主事として毎日のように教区事務所に来られていた足立さんに協力していただいたらどうかと砂田さんに進言、足立さんは2012年に理事になり、2018年に尾崎、木島副会長を得て会長に就任されました。特に力を入れたのが中高生キャンプで、企画から引率までほとんど殆どご自身で進められました。この3月に後を引き受けた島崎さんはその参加者への気配りに感心していました。また100周年記念行事にも密かに意欲を示していたようですが2027年は年齢的にも在任期間としても少し無理があるか、という雰囲気も出ていました。結果現体制となりましたが、理事にとどまり、協力体制を整えておられました。わたくしも同年配でもあり、個人的なおけばよかったなと悔やまれてなりません、これから時々戻ってきて我々の雑談の仲間に入って下さい。

足立征三郎さんを悼む

BSA会長 松田正人

足立さんは若い人に人気がありました。子どものキャンプでも甘やかして媚びるわけでもなく、かといって大人風を吹かすわけでもなく、大きな体でも威圧しない。呼び名を問われて「さぶちゃん」と自称したり、ミニ

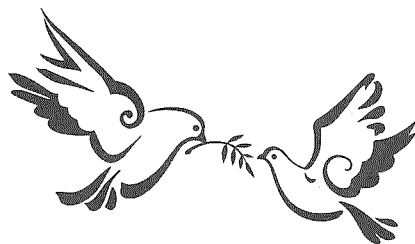
SLに乗るときは熊のサカスのようにでした。

ではご夫人の体調から、まだご葬儀も決まらないタイミングでした。天のパラダイスでの平安をお祈りいたします。

足立さんは私の前任会長でした。事務担当理事から会長を6年。私などよりデジタル事務力がありました。会長の交代後も統計表のメンテナンスに密かな情熱を傾けておられました。5月16日、木島副会長と一緒に自宅にお見舞いしました。

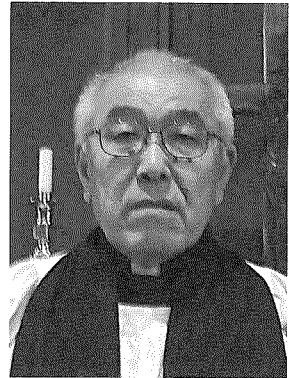
体調が芳しくないと聞こえてきたのです。なんともう4回目の入院から退院して間もない日でした。治療はストップして自宅療養中だというやせた体でしたが、おだやかないつものトーン、悪あがきせず神様にゆだねている達観した風情はクリスマスチャンの鑑に思えました。

洗礼名のマルチンから連想される「靴屋のマルチン」のように神様に会っていらしたのではないのでしょうか。このVISION入稿のタイミング



寄稿 BSA信徒叢書と私

司祭 マルコ福田弘二
北関東教区退職司祭



私は六十歳で公立学校の教員を退職してから神学校で学び、二〇一九年に司祭按手を受けましたが、この三月末で定年により退職となり牧師の任を解かれました。

BSA信徒叢書との出会いは、今から三十年以上前にさかのぼります。確か軽井沢の教会の入口の所に何部か陳列してあり、そこでは自由に手に取り、ほしい場合はその部数に応じた金額を箱に入れるシステムだったと記憶しています。ハンディなサイズにキリスト教の教義や信仰の核心がコンパクトにまとめられてあり、「これはいい！」と思います。数冊購入したことを覚えています。

その後、東京や埼玉等の教会を訪れた際に聖堂の入口にBSA信徒叢書が置かれてあり、何冊も購入し愛読してきました。聖職になつてからは、新しい信徒叢書が出るたびに信徒に紹介し注文を取ったり、洗礼や堅

信の学び等で活用したりしてきました。

BSA信徒叢書の中で私が特に愛読し、多くの方にお勧めしたのが「聖公会という名の教会(一)」「(四)」でした。これらの冊子に、私たち聖公会の特色や聖公会が大切にしてきたこと等が分かりやすく述べられています。特に、今井丞治司祭が執筆された(二)《BSA信徒叢書7》の「お祈りは」の項目から多くの示唆をいただきました。それは以下のようなのです。

『祈りは神様との対話であり、ACTS「行い」とよく言われます。ACTSの、AはAdoration 賛美、CはConfession 懺悔、TはThanksgiving 感謝、SはSupplication 祈願であり、祈りはこの四つの内容をもっている』というものです。この他にも、BSA信徒叢書には信仰の糧となる多くの冊子があります。ぜひ皆さん、手に取ってお読みになることをお勧めします。

青少年キャンプ

去る3月BSA青少年キャンプが開催されました。

このキャンプはBSAとキープ協会の共催で行われる恒例のキャンプで、歴史を遡ると遠く昭和9年の同胞会指導者訓練協

議会にその源流を見ることが出来ます。

当時は御殿場や山中湖畔で60名の参加で行われたとの記録があります。

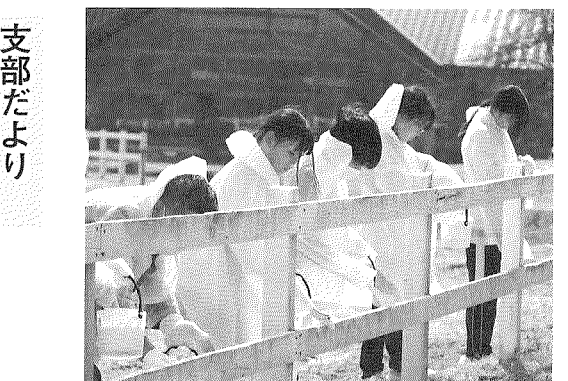
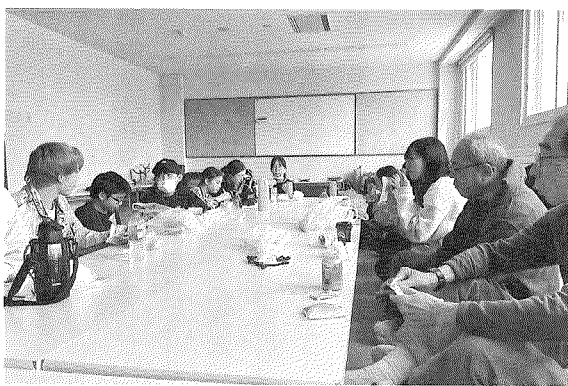
コロナ禍による中止4年をはさんで再開して2回目の今年は小学生6人、中学生3人、リーダー役の青年4人が参加しました。

3月26日西調布駅前で清泉寮のバスに乗り込んだ時は、一部の顔見知り以外は緊張の面持ちでしたが、2泊3日、早朝礼拝や盛りだくさんのプログラム、ボランティア活動と銘打ったごみひろいウォークや牧欄のペンキぬり、清泉寮ならではの自然学校のプログラムなどを通して自然にふれ、それぞれの個性を発揮し学びあう3日間となりました。

リーダーたちも初めての参加の二人を含め、いろいろな工夫で盛り立てました。

かつてのリーダーズキャンプのように、リーダーの資質や技術を高めるプログラムの追加にも知恵を集めていきたいと考えている事務局です。キャンプの振り返りにもそれぞれが「楽しかった」「アツという間に終わった」「もっと長く過ごしたい」と書いていましたが、一番楽しかったこととして、いくつかのプログラムが挙げられていたのが興味深かったです。あい

にく天気にも恵まれず、黄砂の影響や断続的な雨にもあいましたが、朝の礼拝場所を屋外から清里聖アンデレ教会に移すなどして対応することが出来ました。ナイトウォークでみた暗闇に光る野生の鹿たちの眼や、みんなでワイワイ言いながら手作りした「ほうとう」や「バター」の味など忘れられない思い出となりました。



支部だより

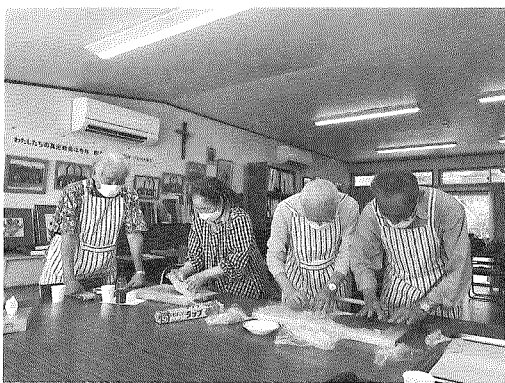
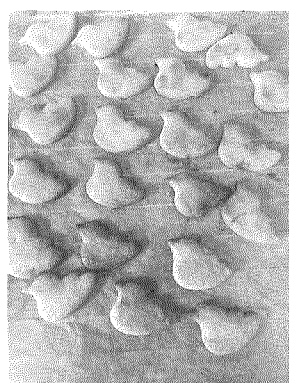
南町田支部活動報告

6月8日の聖霊降臨日にむけて南町田支部メンバーの不器用な男たち4人は鳩の形のクッキーを作ることを思いつき、レシピーの調達、抜型の調達、真光教会の女性たちに支援を仰いで、試作1回、挫折との闘い数日を経て、ついに5日に完成し、3小鳩一袋として、材料代見合いの50円(以上いくらでも)に

て好評(同情)発売にこぎつけ完売いたしました。

次回は自立率をはじめ、製品品質の向上を誓い合いました。他支部での活動プランの一端にお勧めします。

松田正人(支部長)



清里高原だより 清泉寮ニユース

ポール・ラッシュ来日100周年

1925年初来日

ポール・ラッシュが、関東大震災後の復興事業のために初めて日本の地を踏んでから、今年でちょうど100年。

恐らくその時点では何の準備もしていなかったであろう27歳の一人の青年が、そこから亡くなるまでの半世紀以上の年月を駆けつけ、遺した足跡(立教大学、聖路加国際病院、BSA、アメリカンフットボール、清泉寮、清里開拓...)を挙げていくと背筋を正される思いがします。

100周年記念プロジェクト

キープ協会は、4月から来年3月までの一年間を対象期間とした「ポール・ラッシュ来日100周年プロジェクト」を全部署の若手・中堅を中心とした有志で立ち上げました。

メンバーから積極的に出される様々なアイデアが、新しい企画や記念グッズの開発・販売に繋がり、集客や売り上げを図りながら、ポール・ラッシュについてしっかりと発信していく取

り組みが始まっています。

派手な大きなことばかり狙っているわけではなく、以下に紹介するようになちよつとしたミニ企画も意外に好評です。

*ポール・ラッシュ記念館の普段立ち入りできないリビングや寝室を館長が特別に案内するガイドツアー

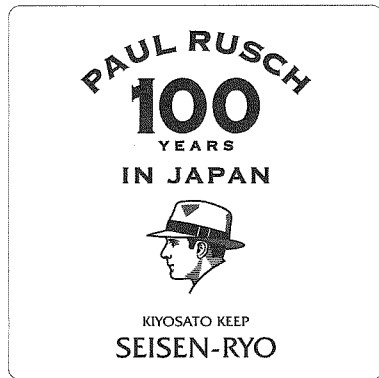
*ポール・ラッシュの生涯を描いた漫画「ポール・ラッシュ物語」を清泉寮の浴場への通路に掲示

*ポール・ラッシュがいつも座っていた教会の席に実際に座り祈りを捧げる&教会建設当時の石運びの様子を再現して実際に持ち上げる体験をしてもらう 聖アンデレ教会の試み

今後も新しい企画が次々に登場する予定です。随時HPで紹介させていただきますので、どうぞお楽しみに。

ロゴマークと記念グッズ

ここにご紹介しているのは、今回のプロジェクトのロゴマークです。描かれているのはもちろんポール・ラッシュです。馴染みのある老年期の丸顔と異なるので不思議な感じがしますが、あえて100年前の27才のポール・ラッシュをイメージしたものをキープと関係の深いデザイナーに作っていただきました。これを使った期間限定グッズが、コースター、缶バッジ、クリアファイル、ボールペン、UISスキーグラスなど、次々に売店などに登場する予定です。お立ち寄りの際は、是非手に取ってご覧ください。



取ってご覧ください。

ポール・ラッシュ祭の復活開催

現在、キープ協会は、キープが存立する清里という地域とともに、経済的・人的にとっても厳しい状況にあります。そうした中ではありますが、関係者との協議を重ねた結果、キープ協会の再建のためにも、清里の再興のためにも、ポール・ラッシュ来日100周年という記念すべき年に、コロナ禍以降中断していた「ポール・ラッシュ祭」を6年ぶりに復活開催することを決めました。

決めた日程と場所以外は、地域の関係者と一緒に検討を進めています。以前のような規模のイベントにはならないかもしれませんが、来場者や関わるスタッフが、明るい希望を胸に抱けるような新たなポール・ラッシュ祭を作っていくつもりです。

日程...10月18日・19日
場所...清泉寮前広場
内容...詳細未定です。今後HPでお知らせしていきます。

新たな100年への継承

ポール・ラッシュ来日100周年を機に、百年前から現在に至るポール・ラッシュの足跡を、様々な角度から辿り、それらに関わり、様々なご支援をいただいた多くの方々に感謝を捧げながら、広く発信を行います。

それと同時に、これから百年後を見据えて、ポール・ラッシュがそうしてきたように、時代や社会の要請に応えながら、一流を目指して全力を尽くすポール・ラッシュ精神をしっかりと継承していくつもりです。

これらのことは、再来年2027年に100周年を迎える日本聖徒アンデレ同胞会の「100年の歩みに感謝し、次の100年を見つめて」の言葉に見事に表されていることを感じます。

「VISION」文芸

アブラハム 野田 徹

新割りの汗がしたたる五月晴れ

田植えすみ待つてましたと蛙鳴く

青梅を美味しくなあれと天日干し

ダビデ 吉松英美

明け方の遠くに轟く春雷に雨戸を開ける彼岸の中

いと小さくされし人らに寄り添いて一人静かに教皇の逝く

ご復活を述べ伝えての翌朝の教皇訃報に主の計らしいが

モーセ 酒井 健

古池とガリヤ湖にて水の音蛙飛び込みペトロおぼれる

パン五個と魚二匹と水瓶を六つ用意し何も起こらず

朝顔に鶴瓶取られてサマリヤのヤコブの井戸でもらい水かな

ヨハネ 松平謙次

ゆいまゝるゆかしき言葉その裏に沖縄の怨隠されてお

り(ゆいまゝるは沖縄方言で「助け合い」の意)

りーかあさま青木恵哉ライオン病みし人にともしない捧げし命

(同師は激しい迫害に遇いながらも愛楽園を創設した伝道師)

漆黒のガマに住人軍人と傷病者千この世の地獄

(ガマは沖縄各地にある鍾乳洞・自然洞窟)

前号に掲載した雲辺作の俳句を以下のように訂正します。(編集者)

「家族葬ばかりの村や冬に入る」

編集後記

・VISIONはご存知の通り年4回の発行です。一方、総会は2月と11月末の二回です。総会の公示と報告、クリスマスとイースター関連記事、という具合に毎号、記事を当てはめようと思つたといふぶんアンバランスになります。タイムリーな記事掲載といかないのです。3月のキャンプ予告は2月号でしたが、報告記事は7月号と4ヶ月も経過してしまいます。写真には雪も残っているのですよね。また、一方、7月5日の九州教区主教按手式記事と4月12日の大阪教区主教按手式記事が同じ号にのりました。勿論、月刊紙にする訳にはいかないのです、ある程度ご理解いただいているとは思いますが隔靴掻痒の感もあります。今号にはめづらしく慶應大学BSAのOBの吉村兄から投稿をしていただきました。文中にあるように、いまだにBSAを立教OBの集まりだと思われている節があります。記事でおわかりのように、発足のきっかけは別でも根っこは一緒のアメリカです。一緒の宣教の一環です。2027年、創立100年をきっかけに、幅広くウイングをひろげて次の日本聖公会の一つの軸になりたいと13代にして初の立教外会長として考えています。ご意見、ご協力を切にねがいます。(M)